

図-9 湿原再生区域内の地下水位、水路の流向及び明・暗渠の位置

環境調査結果概要

平成 15 年度は、湿原再生に資するための基礎資料を得ることを目的として、改変部(農地跡地)と非改変部(旧幌呂川周辺)において、植物、昆虫類および魚類の 3 項目について環境調査を行った。各調査の調査方法と時期及び調査地位置図は、表-1 及び図-10 に示すとおりである。

表-1 各調査の調査方法と時期

区分	調査項目	調査方法の概要	調査時期	
植物	植物相調査	調査地内を踏査し、確認された植物を野帳に記載した。また、重要種については平面的な分布状況、生育箇所の規模を記録した。	6月 8月 9月	
	植生図作成調査	航空写真(1/9,000、平成9年7月撮影)を参考に現地にて区分を行い、植生区分図を作成した。	8月	
	群落組成調査	植生図作成調査により区分された植生の代表的な箇所にコドラート(方形区)を設置し、ブラウン・ブランケの全推定法による群落組成の記載を行った。	8月	
昆虫類	任意採集法	見つけ採り	踏査中に飛んでいるガ・チョウ類、トンボ類等の捕虫網による採集や石の下のコオロギ類、コウチュウ類等の採集を行った。	7月 8月 9月
		スウィーピング	捕虫網を振り、草や木の枝の先端や花をなぎ払うようにして採取した。	
		ビーティング	木の枝、草などを叩き棒で叩いて、落下する昆虫類をネット(雨傘でもよい)で受け取って採集した。	
		目撃	トンボ類、チョウ類、セミ類、バッタ類等の目撃あるいは鳴声で種を判別できる昆虫類を確認し、記録した。	
	ベイトトラップ法 (ピットフォールトラップ法)	歩行性の昆虫類を対象にして、ポリエチレン製コップにベイト液(黒糖、酢酸、エタノールを混ぜたの誘引液)を入れて地上に原則として3日間程度埋め、コップ内に落ちた昆虫類を捕獲した。コップは各調査地点につき約1m間隔で20個を埋めた。		
ライトトラップ法 (ボックス法)	主として夜行性のガ・チョウ類を対象として、ボックス法により1回あたり1夜実施した。昆虫類の走光性(光に群がる習性)を利用した方法で、6Wの紫外線灯の下に、大型ロート部及び昆虫収納用ボックスからなる捕虫器を設置した。			
魚類	捕獲調査	各調査地の状況に応じ、電気ショッカー(出力電圧800/400切り替え式)投網(21節1200目)タモ網(径36cmの柄付き、径100cmの半円形)及びドウを用いて捕獲した。捕獲した魚類は、種ごとに個体数を記録し、参考のため、各種20個体以内の全長・体長を測定した後、放流した。	6月 8月 11月	



## 植物

・幌呂川地区周辺の植生は、森林植生 5、草原植生 8 の合計 13 タイプに区分された。植生区分表と植生区分図は、それぞれ表-2 及び図-11 に示すとおりである。

・確認された植物は改変部において 62 科 244 種類、非改変部において 73 科 294 種類、合計で 78 科 336 種類であった。このうち、重要種は改変部の 15 科 18 種類、非改変部の 18 科 26 種類、合計で 21 科 29 種類が該当する。各重要種の確認状況と確認位置図は、それぞれ表-3 及び図-12 に示すとおりである。

表-2 植生区分表

植 生 区 分		群 落 名	改変部	非改変部
森林植生	自然植生	a. ミズナラ林		
		b. ハンノキ - ヤチダモ林		
		c. ハンノキ林		
		d. ハンノキ低木林		
		e. ヤナギ林		
草原植生	自然植生	f. ヨシ群落		
		g. スゲ群落		
		h. ホザキシモツケ群落		
		i. イソツツジ群落		
		J. 水生植物群落		
	代償植生	k. 雑草地		
		l. クサヨシ群落		
		m. 牧草放棄地		

## 昆虫類

・幌呂川地区周辺で確認された昆虫は改変部で 12 目 116 科 492 種類、非改変部で 10 目 90 科 282 種類であった。このうち、重要種は改変部の 6 科 7 種類、非改変部の 7 科 7 種類が該当する。各重要種の確認状況と確認位置図は、それぞれ表-4 及び図 12 に示すとおりである。

## 魚類

・幌呂川地区では 6 科 18 種の魚類および 1 科 1 種の甲殻類が確認された。このうち、重要種は 5 科 10 種類が該当する。各重要種の確認状況と確認位置図は、それぞれ表-5 及び図-12 に示すとおりである。

表-3 植物の重要種の確認状況

科名	種名	貴重性	確認箇所		確認状況の概要
			変更部	非変更部	
タデ	ノダイオウ				河岸や過湿地などに局所的に分布。
ナデシコ	ナガバツメクサ	貴			ハンノキ林下を中心に広範囲に分布。
	エゾオオヤマハコベ	貴			牧草放棄地や道端、河道沿いの雑草地を中心に広範囲に分布。
キンボウゲ	シコタンキンボウゲ	貴、B			道端で確認。分布は局所的である。
スイレン	ネムロコウホネ	、Vu			中央・南排水路、幌呂川旧川下流部に点在。
ケシ	チドリケマン	準			湿原の辺縁部や河道沿いなど、広範囲に分布。
アブラナ	エゾスズシロ	貴			国道沿いの雑草地一箇所で確認。
	ワサビ	R			斜面から湧き出る流れの縁に群生。分布は局所的。
ユキノシタ	エゾネコノメソウ	B			湿原の辺縁部やヨシ群落内など、局所的に分布。
バラ	エゾクサイチゴ	貴			道端や河道沿いの雑草地など、広範囲に分布。
	ホザキシモツケ				ハンノキ林下や水路沿いなど、広範囲に分布。
アカバナ	ヤマタニタデ				河道沿いに局所的に分布。
ツツジ	イソツツジ	貴			調査地南部のスゲ群落内に点在。
サクラソウ	エゾオオサクラソウ	貴、R			斜面下部に点在。
アカネ	エゾキヌタソウ				道端で確認。分布は局所的である。
シソ	エゾナミキソウ	B			ハンノキ林下や湿原辺縁部など、広範囲に分布。
スイカズラ	ケヨノミ	貴			ヨシ、スゲ群落の辺縁などに局所的に分布。
ヒルムシロ	ホソバヒルムシロ				幌呂川旧川の河道内に点在。
ユリ	クロユリ	R			河道沿いを中心にやや広範囲に分布。
アヤメ	カキツバタ				過湿地に局所的に分布。
イネ	ヒメウキガヤ	R			幌呂川旧川の河道内、水路内に点在。
ミクリ	ミクリ	危、準、R			幌呂川旧川の河道内に局所的に分布。
	タマミクリ				幌呂川旧川の河道内に局所的に分布。
	エゾミクリ	R			中央・南排水路、幌呂川旧川の河道内に点在。
カヤツリグサ	アカンカサスゲ	不明、R			道端や河道沿いなど広範囲に分布。
	ウスイロスゲ				河道沿いなど、広範囲に分布。
	ヒロハオゼヌマスゲ	準			ヤナギ林の林下など局所的に分布。
	オオハリスゲ				ヤナギ林の林下など局所的に分布。
ラン	トキソウ	、Vu			調査地南部のスゲ群落内に点在。

< 凡 例 >

- 貴 : 貴重植物(自然環境保全調査)
- 不明 : 現状不明種(我が国における保護上重要な植物種の現状)
- B : 絶滅危惧 B類(改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - )
- 準 : 絶滅危惧 類(改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - )
- 準 : 準絶滅危惧(改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - )
- Vu : 絶滅危急種(北海道レッドデータブック2001)
- R : 希少種(北海道レッドデータブック2001)

図-11 幌呂川地区植生区分図



凡 例	
	ミズナラ林
	ハンノキーヤチダモ林
	ハンノキ林
	ハンノキ低木林
	ヤナギ林
	ヨシ群落
	スゲ群落
	ホザキシモツケ群落
	イソツツジ群落
	水生植物群落
	雑草地
	クサヨシ群落
	牧草放棄地

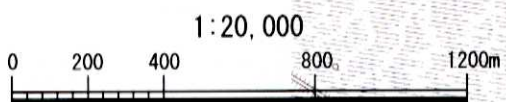
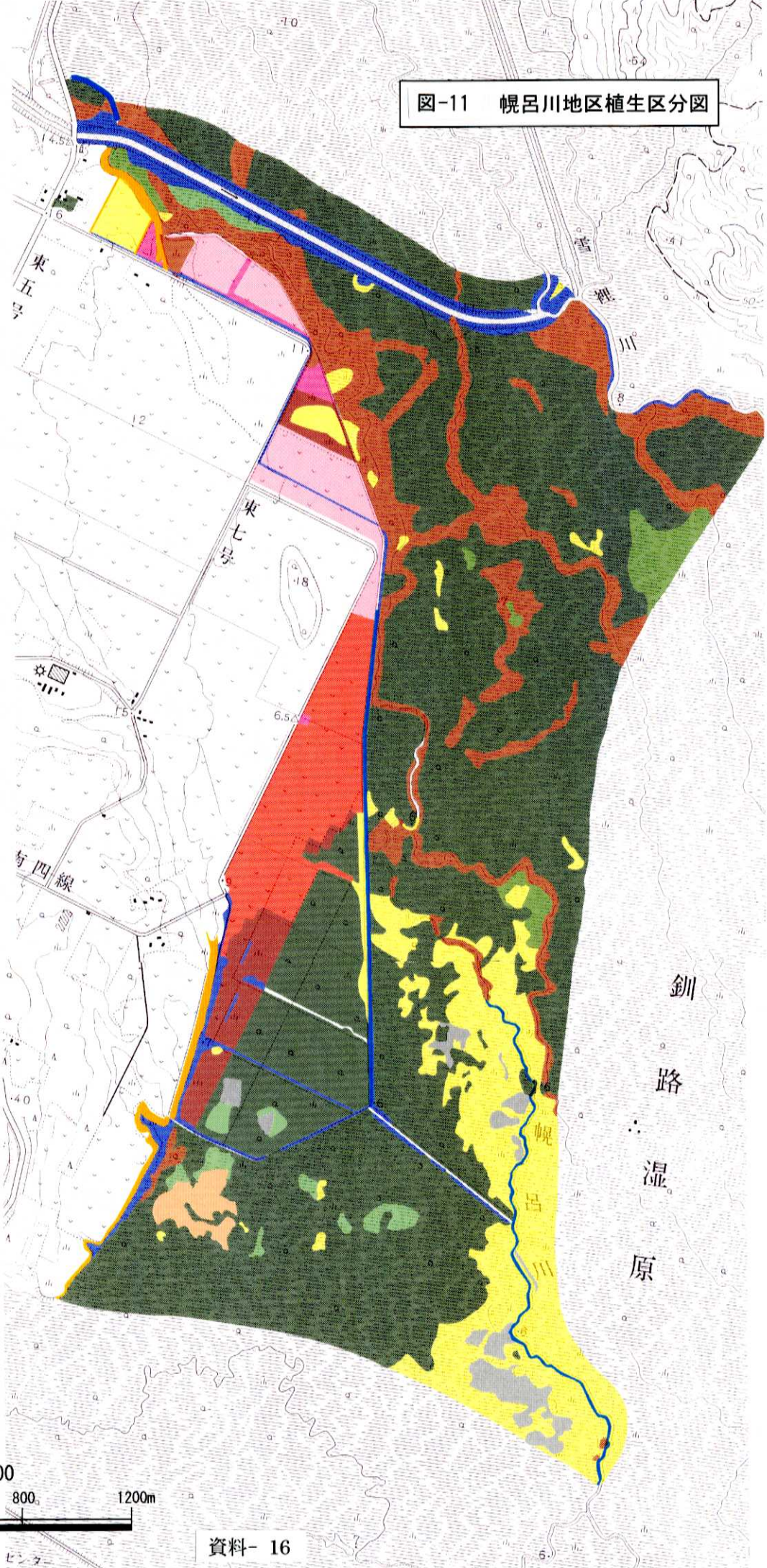


表-4 昆虫類の重要種の確認状況

科名	種名	貴重性	確認箇所	
			変更部	非変更部
イトトンボ	キタイトンボ	自然、特定		
エゾトンボ	コエゾトンボ	自然		
ミズムシ	ミズムシ	R		
カスミカメムシ	ムモンナガカスミカメ	R		
オサムシ	セスジアカガネオサムシ	特定		
	アナバネゴミムシ	HR		
イエバエ	キバネクロバエ	HR		
	コシアキトゲハナバエ	HR		
クロバエ	エゾクロバエ	HR		
トビケラ	ヒメアミメトビケラ	HR		
シジミチョウ	ゴマシジミ	R、VU、HN		

<凡例>

自然：すぐれた自然選定種(第1回自然環境保全基礎調査)

特定：特定昆虫類選定種(第2回自然環境保全基礎調査)

R：希少種(日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - )

VU：絶滅危惧類(日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)

HR：希少種(北海道レッドデータブック2001)

HN：留意種(北海道レッドデータブック2001)

表-5 魚類の重要種の確認状況

科名	種名	貴重性	確認箇所
ヤツメウナギ	スナヤツメ	VU	幌呂川直線区間、中央排水路
	シベリアヤツメ	NT、R	幌呂川直線区間
コイ	ヤチウグイ	NT	中央排水路、幌呂川旧川上流、幌呂川旧川下流
	エゾウグイ	N	幌呂川直線区間、中央排水路、幌呂川旧川
ドジョウ	エゾホトケドジョウ	VU、En	幌呂川直線区間、幌呂川旧川上流、幌呂川旧川下流
サケ	ヒメマス	Cr	中央排水路
	ヤマメ	N	幌呂川直線区間
トゲウオ	降海型イトヨ	選定	幌呂川直線区間、中央排水路、幌呂川旧川下流
	エゾトミヨ	NT、R、選定	幌呂川直線区間、中央排水路、幌呂川旧川上流、幌呂川旧川下流
	キタノトミヨ	選定	幌呂川直線区間、中央排水路、幌呂川旧川上流、幌呂川旧川下流

<凡例>

選定：環境庁選定種(第2回自然環境保全基礎調査)

VU：絶滅危惧類(改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - )

NT：準絶滅危惧(改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - )

Cr：絶滅危機種(北海道レッドデータブック2001)

En：絶滅危機種(北海道レッドデータブック2001)

R：希少種(北海道レッドデータブック2001)

N：留意種(北海道レッドデータブック2001)

図-12 幌呂川地区重要種確認位置図

